

散歩したくなる商店街のデザインの提案

静岡文化芸術大学 大学院 デザイン研究科

磯村克郎研究室、寒竹伸一研究室

指導教員：磯村克郎

参加学生：王丹、王玲、彭子恬、増子葉月

1. 要約

下田市は人口約2万人の伊豆半島南部東側に位置する都市である。1854年に日米和親条約の締結の際、函館と共に開港され、ペリー提督艦隊が入港したことで知られている。昨年度の研究では、一昨年の基本構想案を基に、モデル事業の提案を3案行い、その中で最初に下田市観光案内所と周囲をリノベーションすることが決定した。

本研究では、下田市観光案内所の役割や周辺地区との関わり方について検討し、観光客を中心市街地へと誘導する仕組みを作ることを提案した。

2. 研究の目的

下田市は現在、中心部の観光客数の減少とともに、中心市街地の衰退が問題となっており、町の活気が失われている。そこで、昨年度には下田市市役所と本学デザイン研究室が連携し、中心市街地にある商店街やその周辺に焦点を当てたモデル事業の提案が行われ、その提案の一つである下田市観光案内所と周囲をリノベーションするモデル事業が最初に行われることとなった。

本研究では、下田市観光案内所が有効に使われるよう、観光客を伊豆急下田駅から下田市観光案内所、そして中心市街地へと誘導するための提案を行い、中心市街地の活性化に寄与することを目的とする。

3. 研究の内容

昨年度までの研究から、下田市観光案内所周辺地区の課題の発見を行い、観光客を下田市観光案内所、中心市街地へと誘導する必要性が明らかになった。そこで、観光客を誘導するためのデザイン構想案を作成した。

4. 研究の成果

(1) 当初の計画

昨年度決定した下田市観光案内所のモデル事業に関して、再度検討を行い部分的な試作など提案する。

(2) 実際の内容

今年度はコロナの影響で下田市を何度も訪問することはできず、前期は大学でも活動ができなかったため、試作提案からモデル事業の課題発見とデザイン提案に切り替えた。2021年1月に一度下田市役所でミーティングを行い、学生からの調査・構想案に対して評価をいただいた。

(3) 実績・成果と課題

① モデル事業について

観光客の海水浴への単一目的の動線がまちなかを迂回していく現状は、多様な移動手段に乗り換えら

れる拠点を整備して、まちなかを周遊する行動と海水浴などが両立できるように転換していく必要がある。現状では、駐車場、レンタサイクル、観光案内施設が単一機能として設置されているが、乗り換え地点として融合する整備を行う。

モデル整備では、観光案内所と商店会駐車場をモビリティの結節点と捉え、レンタサイクル施設、情報案内板、植栽や施設リノベーションによって一体化した環境とする整備を行う。



②観光案内所周辺地区の課題

昨年度の研究と調査から、以下の3点が分かった。

- ・下田駅内にも伊豆急が運営する観光案内所があり、電車で到着した観光客はまずここを訪れると考えられる。
- ・観光案内所は、下田駅から目視することができず、いくつか角を曲がりたり着かなければならないため、行かずにその先の商店街やペリーロードに向かってしまう観光客もいると考えられる。
- ・トリップアドバイザー、Google map でのレビューでは、良い評価、悪い評価どちらの場合にも場所が分かりにくいとの言及がされていた。



③観光客を環境が誘導する

②の課題から、観光案内所がその役割を果たすために、まずは観光客を観光案内所へ誘導する必要がある。下田市は観光地として栄えた場所であり、町中にはすでに多くのサインがある。ここに観光案内所に旅行者を誘導するために新たな矢印を設置するのは、かえって目立たず、埋もれてしまう。

そこで環境で誘導することを提案したい。観光案内所までの道のりを、何かありそうな予感をさせる、手がかりとなるような案内で観光客を誘導する。サインには下田市から見える海の色や、代表的な名産品である金目鯛のグラフィックスをインジケータに取り入れ、下田らしいサインとなるようにする。



④グラデーションと金目鯛インジケータ

【「青～黒」のグラデーションで、現在地を示す】

下田駅には観光案内所があり、下田駅はのれん風のデザインなど、青色で統一されており、また下田市は駿河湾の恵みを受けた地域であるため、海の色を連想させる青色とは縁が深い。そして、下田市の観光名所としてペリーロードが有名であり、ペリーロードという名前や黒船博物館があることなどから、黒色が連想される。

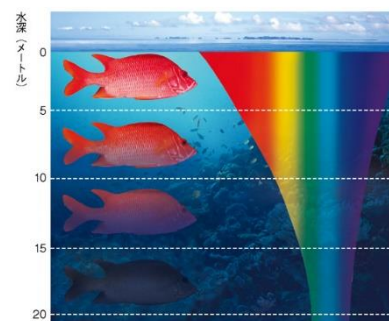
そこで、用いる色彩は、下田駅の「青色」からペリーロードの「黒色」へのグラデーションの中の色とし、サインのある場所に対応して用いる色彩を変化させる。サインの色の变化で、観光客に直感的に現在地を示す。



【「明るい赤～暗い赤」のグラデーションで、伝える情報の優先度で変化をつける】

金目鯛は下田市の名産品として有名であり、シンボリックなシルエットが特徴的である。この金目鯛を下田駅からペリーロードまでの主な回遊動線のサインに用いる。金目鯛のモチーフは顔の向きがあるため、方向を示すサインに適している。

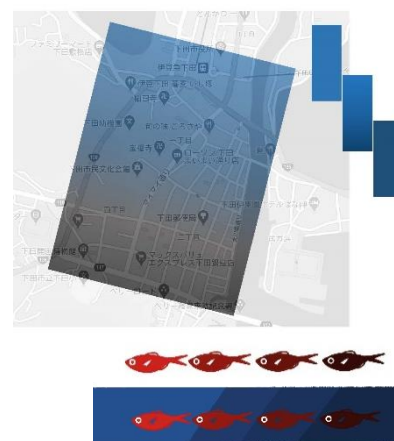
また、金目鯛は深海魚であり、その赤色は水深が深くなるにつれて、目立たなくなっていく。この特性を基に、目的地までの距離が遠ければ目立つ「明るい赤色」、その場所を目視できる場所では案内の矢印は不要なため「暗い赤色」と、伝える必要の優先度に合わせて金目鯛の色を変化させる。



【2つのグラデーションで直観的に誘導する】

下田駅の「青色」からペリーロードの「黒色」という、地理的なグラデーションのルールと、矢印の代わりに用いる金目鯛の「明るい赤色」から「暗い赤色」という伝える必要のある情報の優先度のグラデーションのルールを合わせてサインに用いる。

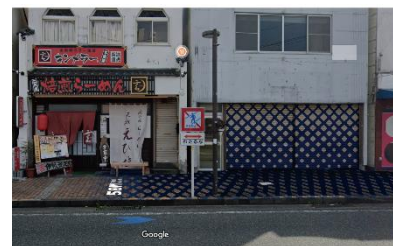
直感的に判断できる2つの色彩のルールに準じたサインが、観光客を目的地まで誘導する。



⑤周辺の景観

【トロンプリュウで街を飾る】

トロンプリュウの手法を用いて下田市の長を表すものを景観に取り入れる。例えば、なまこ壁をシャッターに再現するだけでなく、歩道のデザインと連動させる。町中に写真を撮るポイントをつくり、観光客を惹きつけ写真を撮ってもらうことで、SNSで宣伝することが可能となる。

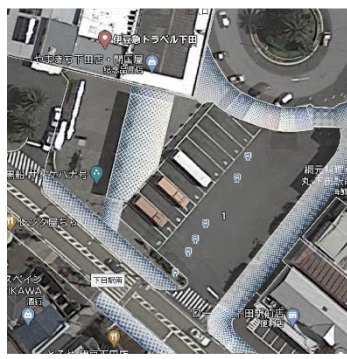


⑥動線・誘導計画

下田駅内の観光案内所と下田市観光案内所の2つを回遊動線で繋ぐ検討案を作成した。グラデーションを舗装によって表現し、耐久性のあるものとする。現在の下田市観光案内所の周辺は舗装がバラバラであるが、統一したデザインにすることで、舗装に観光客を誘導する役割を与える。



下田駅内観光案内所周辺



下田市観光案内所周辺



5. 地域からの評価

下田市役所でのミーティングにおいて、以下の評価をいただいた。

(下田市市長、統合政策課 出席)

- ・色で観光客を誘導するアイデアが面白い。
- ・既にいくつかなまこ壁を取り入れたサインはあるが、再現しただけであった。今回の提案のような仕組み作りは今までになく、誘導方法として興味深い。(元サイン整備担当者の方)
- ・金目鯛の色が暗くなっていくということだが、サインとしての視認性については問題ないか。下田らしいところは良い。
- ・色で誘導する、下田の金目鯛を取り入れるなど、これまで思いつかなかった提案で面白い。
- ・単になまこ壁を取り入れたサインはあるが、再現しただけではないものにしてほしい。
- ・観光案内所の、町づくりのソフトとしての中身についても、考えて提案してほしい。
- ・まちなかで社会実験した広場などがあるので、このデザインを現場で試作することも考えられる。